



日々錬磨した救助技術を披露

新福 拓也 消防副士長 (写真左)

今回の結果は2位という成績で悔しい結果となりました。その中でも、ここまで頑張れたのは色々な人の協力や支えがあったからだと思います。

感謝の気持ちを忘れることなく、さらなる錬磨をしていきたいと思っています。

川村 誠哉 消防副士長 (写真中央)

県指導会の一発勝負の中で、全国大会まであと1歩届きませんでしたが、入賞という形で訓練の成果を残すことができました。

消防の現場は常に一発勝負です。どのような時も力を発揮できるように、知識・技術の錬磨に努めていきます。

宮田 光弥 消防士 (写真右)

今回、初めて県指導会に出場させていただき、普段感じるのではない緊張感の中でとても良い経験をすることができました。

まだまだ、未熟ですが、市民の方々の笑顔を守り、信頼していただける消防職員となれるように日々精進します。

指導会の様子は
はこちらから



第45回鹿児島県消防救助技術指導会が、5月26日に鹿児島県消防学校(日置市)で開催されました。これは、県下20消防(局)本部から選抜された消防隊員・救助隊員が一堂に会し、日頃の訓練の成果を披露し、安全確実な救助技術の確立を図ることを目的としています。

当日は、延べ371人の隊員が出場しました。垂水市消防本部からは、新福消防副士長、川村消防副士長、宮田消防士がチームとして、ビル等で煙に巻かれた人を救出するための訓練である『ほふく救出』の種目に出場し、2位に入賞しました。

垂水市消防本部では、市民の生命と財産を守るために、市民から信頼され、愛される隊員の育成に努めてまいります。



▲段ボールベッドの組み立て訓練

防災対応能力の向上を目指して



▲発電機の起動訓練



▲道下 剛史様 (鹿児島地方気象台)



▲上園 和幸様 (鹿児島地方気象台)

令和5年度垂水市総合防災訓練が、5月22日、23日に垂水市市民館で開催されました。

これは、梅雨や台風シーズンを前に、垂水市の防災体制の実効性について検証・確認を行うとともに、昨年の台風14号対応への課題等を踏まえて職員の方々の防災対応能力の向上を図ることを目的としています。

訓練には、垂水市役所の職員等72人が参加し、鹿児島地方気象台の上園和幸様、道下剛史様の防災講話、避難所運営、防災物資の使い方の実習、消防による初期消火訓練等を行いました。講話の中で上園様は、「防災のために気象、地震、火山等に関する情報を早く正確に提供できるようにしています」と話されました。

本市では、今後も自然災害に備えて、早めの避難やハード、ソフト両面の対策を推進して、安心・安全なまちづくりに努めてまいります。